

ホームヘルプサービスの現状と課題

聖心女子大学 藤崎宏子

1. 目的と方法

地域保健福祉計画の完成年度まで残された時間はあとわずかであり、また2000年4月の介護保険制度導入を控えて、各自治体ともその対応に苦慮している。本報告では、在宅福祉の要ともいえるホームヘルプサービスについて、松本市で実施したインタビュー調査の結果を中心としながら、その現状と問題点について検討する。

インタビューは、サービス提供者（行政・社協担当者、ヘルパー等）とサービス利用者の双方を対象に実施した。前者については、サービス提供主体の多元化と24時間対応（巡回型）事業の導入、そして専門性向上への強い期待などの状況変化のなかで、どのような運営上の困難を感じ、また将来の展望をもっているかなどを中心に聞き取りをおこなった。あわせて、サービス提供者の視点から見た家族介護への評価や期待、介護態勢をめぐる家族メンバー間の意向調整の困難さなどを、具体的な事例に即してたずねた。後者については、ヘルパーと家族の間での介護役割の分担、高齢者本人と家族介護者の意向やサービス評価についての異同、家族介護の困難さと在宅生活の限界の判断などを中心に聞き取りをおこなった。

2. 報告の骨子

当日の報告は、以下のような論点を中心におこなう予定である。

1) ホームヘルプサービスの概況

全国レベルのデータによりホームヘルプサービスの概況を把握したうえで、松本市のサービス提供体制についてその現状と特質を報告する。

2) 行政による評価と展望

ホームヘルプサービスの現状と将来展望に関する、行政側の評価や意向について報告する。松本市以外の事例についても検討し、サービス提供体制の地域差について考察する。

3) ヘルパーによる評価と展望

直接的サービス提供者であるヘルパーが、近年のサービス提供体制と地域の福祉ニーズの変化をどのように評価しているかを中心に報告する。

4) サービス利用者の評価

高齢者および家族介護者がサービスをどのように評価し、どのような要望をもっているかを検討する。

5) 総括

サービス提供者と利用者の評価をつきあわせて、総括的な考察をおこなう。